# 進路指導における「進路の手引き」の有用性の向上
## －各学校の「進路の手引き」の分析と記載モデルの提案－

総合支援部高等学校支援課　長期研修員　遠山誠士

## 1　主題設定の理由

近年の急速な社会構造の変化から、文部科学省は「予見の困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育てることが必要」とし、学習指導要領の改訂および高大接続改革における入試改革が行われている。また、社会構造の変化に伴い、生徒の進路選択についても多様化が進んでおり、学校における進路指導も多様化・複雑化が進んでいる。

各学校では、進路選択に関わる情報や入試情報を提供する資料として、「進路の手引き」が毎年作成されており、進路指導の一端を担っている。「進路の手引き」は各学校の特色を出しながらも、最新の入試動向や教育動向を反映した進路資料であり、生徒が活用するためには定期的な内容更新が求められる。特に、近年の大学入試の在り方や職業観の変化により、学科・課程問わず生徒の進路が多様化し、生徒や保護者の求める進路情報も変化してきている。このような変化の中で、有用性の高い資料にするためには、これまで作成していた「進路の手引き」の内容を大幅に変更する必要性も出てくる。しかし、「進路の手引き」の作成は教員にとって負担となることも事実で、大きな記述の変更などに着手できず、毎年のデータ更新で終わるケースも少なくはない。

「進路の手引き」は、生徒の直近の進路選択についてだけでなく、キャリア教育の中でも活用できる資料であるが、その活用例は少ない。文部科学省が令和５年３月に発行した「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」では、高校生におけるキャリア発達課題で特に重要とされるものとして「自己理解の深化と自己受容」・「選択基準としての勤労観、職業観の確立」・「将来設計の立案と社会的移行の準備」・「進路の現実の吟味と試行的参加」を挙げており、生徒がこれらのキャリア発達課題に照らし合わせながら「進路の手引き」を活用することで、その有用性が発揮される。また、「キャリア教育に関する総合的研究第一次報告書」(2020 年３月国立教育政策研究所)によると、キャリア教育の全体計画、年間指導計画は約８割の学校で作成されており、各学校は上級学校見学や大学・企業の講師を招く進路ガイダンスなどの体験活動を多く実施するなど、各学校においてキャリア教育が推進されている。キャリア教育の進展に伴い、今後、「進路の手引き」の内容の中にもキャリア教育と連動する内容を掲載する必要が出てくると考えられる。

これらのことから、教育動向や入試動向の変化、進路の多様化に対応した有用性の高い「進路の手引き」を作成する必要があると考える。本研究で各学校の特色や変化に対応した「進路の手引き」の記載内容やモデルを提示することができれば、各学校で有用性の高い「進路の手引き」を作成する一助となり、さらに内容更新を検討している学校での負担感を軽減できるものになると考える。これにより、各学校の「進路の手引き」の更新を促し、資料としての有用性を向上させることで、生徒の進路意識の向上や主体的なキャリアプラン形成を促したいと考えた。

## ２　研究の目的

生徒の進路意識の向上やキャリアプラン形成を促す資料として、「進路の手引き」の有用性を向上させるために、各学校の「進路の手引き」の内容と近年の教育動向の関連性を分析し、各学校の進路状況や特色に合わせた記載内容やモデルを提示する。

## ３　研究の方法

令和元年度から令和５年度に各学校から提出された「進路の手引き」（総合教育センター所蔵）を使い、以下の調査・分析を行う。

(1)　「進路の手引き」の項目・内容調査
(2)　「進路の手引き」の内容変化についての調査・分析
(3)　学科での記載項目の傾向分析
(4)　「進路の手引き」の掲載項目の検討
(5)　進路分野ごとのモデル提示

## ４　研究の内容

### (1)　「進路の手引き」の項目・内容調査

記載されている内容の傾向を把握するために、令和元年度から５年度に提出された「進路の手引き」のうち、令和元・５年度の資料を用いて項目・内容調査を行った。

#### ア　項目と調査

項目については所属校の「進路の手引き」を基に分類し、各資料内の記載の有無を集計した。項目の調査を進める中で、進路選択やキャリアプランの検討に関わる項目については、各学校の特色が反映されていると考え、細分化した項目もある。また、調査を進める中で新たに出てきた特色ある記述については、その都度項目として追加している。調査の項目として採用したのは表１のとおりである。

**表１　調査した項目**

| | |
|---|---|
| ①巻頭言 | ⑪就職に関する記述 |
| ②年間進路計画 | ⑫資格取得 |
| ③入試分析・展望 | ⑬大学院 |
| ④共通テスト(センター試験)結果 | ⑭受験スケジュール |
| ⑤昨年度までの進学、就職実績 | ⑮進学に係る費用 |
| ⑥入試結果(○×記載) | ⑯高校の学習・生活 |
| ⑦外部模試 | ⑰合格体験記 |
| ⑧進路選択・キャリアプラン | ⑱進路ワーク |
| ⑨学部・学科研究 | ⑲提出書類 |
| ⑩入試方式 | ⑳令和７年度入試 |

今回の調査では、記述量に関係なく、項目立てして掲載されている、または、「進路の手引き」の中で取り扱われているかで有無を判断している。また、調査対象の母数が各年度で変化しているが、所蔵資料の都合によるものである。

### イ　令和元・５年度の項目・内容調査

令和元年について全日制 81 校、令和５年度については全日制 87 校を対象に調査を行った(表２・３)。８割以上の学校が「進学・就職実績」・「年間進路計画」・「合格体験記」を記載しており、学科等に関係なく進路を検討するうえで必要な情報だと考えられる。８割未満の「入試方式」・「進路選択・キャリアプラン」の記述では、学科等の各学校の特色によって記載内容に違いが見られ、各学校の進路指導の重点を見て取れる。この２つの内容については４(2)の項目変化と４(3)の学科による分析で詳細に説明する。また、項目とは別になるが、令和５年度では、少数の学校でＱＲコードによる外部資料へのリンクを掲載する学校も見られた。

**表２　令和元年度項目・内容調査**

| 令和元年度　集計結果(全日制 81 校) | |
|---|---|
| 【８割以上の高校が記載していた項目】 | |
| 昨年度までの進学・就職実績 | … 100 % |
| 年間進路計画 | … 92.6% |
| 合格体験記 | … 88.9% |
| 【５割から８割未満の高校が記載していた項目】 | |
| 入試方式 | … 77.8% |
| 進路選択・キャリアプラン | … 69.1% |
| 受験スケジュール | … 69.1% |
| 巻頭言 | … 67.9% |
| 就職に関する記述 | … 67.9% |
| 進学に係る費用 | … 59.3% |
| 【２割から５割未満の高校が記載していた項目】 | |
| 入試結果(○×記載) | …45.7% |
| センター試験結果 | …30.9% |
| 出願などに係る提出書類 | …23.5% |
| 学部・学科探究 | …23.5% |
| 入試分析 | …23.5% |
| 【１割から２割未満の高校が記載していた項目】 | |
| 高校の学習・生活 | …18.5% |
| 進路ワーク | …14.8% |

**表３　令和５年度項目・内容調査**

| 令和５年度　集計結果(全日制 87 校) | |
|---|---|
| 【８割以上の高校が記載していた項目】 | |
| 昨年度までの進学・就職実績 | …98.9% |
| 合格体験記 | …92.0% |
| 年間進路計画 | …90.8% |
| 入試方式 | …83.9% |
| 【５割から８割未満の高校が記載していた項目】 | |
| 進路選択・キャリアプラン | …73.6% |
| 受験スケジュール | …71.3% |
| 巻頭言 | …70.1% |
| 就職に関する記述 | …69.0% |
| 進学に係る費用 | …63.2% |
| 【２割から５割未満の高校が記載していた項目】 | |
| 入試結果(○×の記載) | …42.5% |
| 共通テスト結果 | …28.7% |
| 出願などに係る提出書類 | …23.0% |
| 学部・学科探究 | …21.8% |
| 入試分析 | …21.8% |
| 【１割から２割未満の高校が記載していた項目】 | |
| 高校の学習・生活 | …19.5% |
| 進路ワーク | …18.4% |
| 資格取得 | …13.8% |
| 令和７年度入試 | …12.6% |

## (2) 記載項目の変化についての調査・分析

(1)で調査した項目を基に、令和元・５年度の「進路の手引き」の項目変化について調査・分析する。大学入試改革などの教育動向の変化が見られたこの時期には、各学校の進路指導や生徒の進路も変化していることが考えられる。これらの変化に対し、各学校がどのような進路情報を提供しているかを見取ることで、今後「進路の手引き」を作成するにあたり必要な情報は何かを考察していく。

### ア　令和元年度から令和５年度の変化についての調査

(1)で調査した各年度の割合をまとめ、令和元年度から令和５年度の変化を見ていく(図１)。どの項目においても若干の数値の変化があるが、入試改革や教育動向に影響を受けていると考えられる項目について表５に数値とともに示す。「入試方式」については令和元年度で 77.8%、令和５年度で 83.9%と 6.1 ポイント増加している。「進路選択・キャリアプラン」については令和元年度で 69.1%、令和５年度で 73.6%と 4.5 ポイントの増加であった。「資格取得について」も、令和元年度が 8.6%、令和５年度が 13.8%と 5.2 ポイント増加している。「大学進学に係る費用」については令和元年度が 59.3%、令和５年度が 63.2%で 3.9 ポイント増加している。

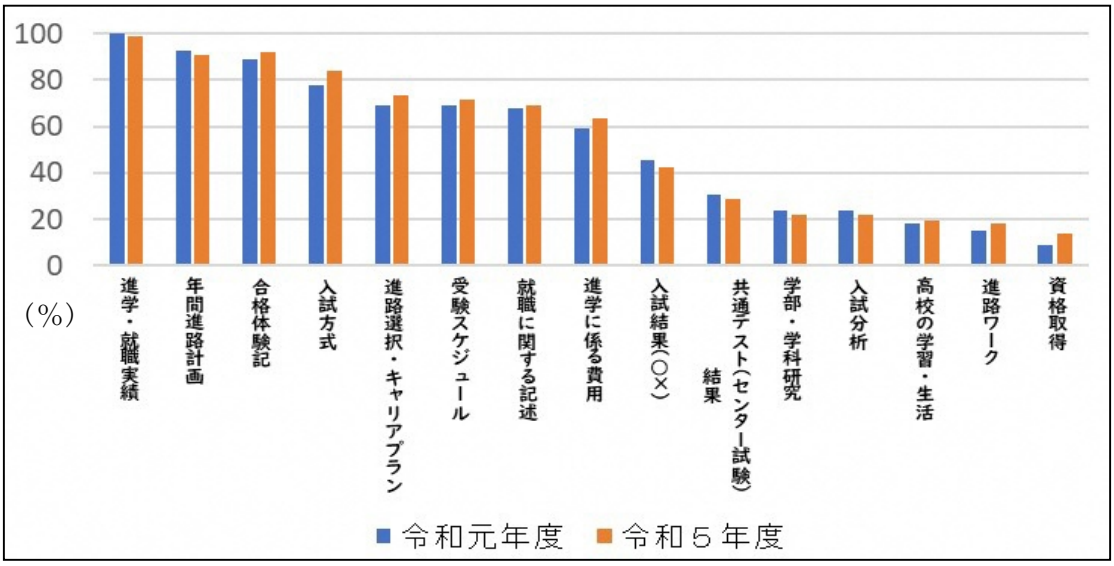


**図１　年度別　記載学校の割合**

**表５　入試改革や教育動向の影響を受けたと考えられる項目**

| 項目 | 令和元年 | 令和５年 | 変化(ポイント) |
|---|---|---|---|
| 入試方式 | 77.8% | 83.9% | 6.1 増 |
| 進路選択・キャリアプラン | 69.1% | 73.6% | 4.5 増 |
| 進学に係る費用 | 59.3% | 63.2% | 3.9 増 |
| 資格取得 | 8.6% | 13.8% | 5.2 増 |

### イ　項目変化と内容変化についての分析

最も変化が大きかった「入試方式」については、近年における入試方式の多様化・複雑化が影響していると考えられる。中でも、総合型選抜(令和元年度はＡＯ入試)・学校推薦型選抜についての説明や注意事項について記載する学校が増加していたため、これについて新たに「総合・推薦に関わる記述」の項目を立てて割合を調査した(表６)。

**表６　総合型選抜(ＡＯ入試)・学校推薦型選抜に関する記述の変化**

| 令和元年 | 令和５年度 | 変化(ポイント) |
|---|---|---|
| 60.5% | 72.4% | 11.9 増 |

令和元年度の総合型選抜(ＡＯ入試)・推薦入試について記載されている割合は 60.5%、令和５年度では 72.4%で 11.9 ポイント増加しており、大学入試改革以降の各学校の対応が見て取れる。これまで共通テスト(センター試験)や国公立２次試験といった一般選抜のみを掲載していた進学校でも、総合型選抜・学校推薦型選抜の記述が掲載されるようになり、私立大学の総合型選抜・学校推薦型選抜による年内入試の増加や国公立大学における総合型選抜の拡大が理由と考えられる。これに関連して、「資格取得」について、主に専門学科で掲載されていたものが、普通科や専門学科併設校においても英語技能検定などの各種検定の記載が見られるようになり、総合型選抜や学校推薦型選抜での活用と関連していると考えられる。

「進路選択・キャリアプラン」については、キャリアプランを検討させる記述や、上級学校や就職といった高校卒業後の具体的な進路についての説明が主で、生徒の進路検討に役立つ情報となっている。これらは学科を問わず増加する傾向にあり、各校でのキャリア教育の進展や、昨今の職業観の変化における生徒の進路選択の多様化の影響が考えられ、今後も内容の変化が見込まれる部分である。

「進学に係る費用」では、受験に係る費用、大学における学費と生活費、各種奨学金等について説明がされているが、これには金銭的理由で進学を困難とする生徒の増加や奨学金返済問題などの影響が大きいと考えられる。特に奨学金については多くの学校で記述されており、奨学金の種類の説明だけでなく返済についての注意事項を記述している学校が多く見られた。生徒だけでなく、保護者に対しても発信されている内容で、家庭における進路検討において非常に重要な資料である。

### (3) 学科による記載項目の傾向分析

項目調査を進めていく中で、同等の進学実績や学科で共通する記述が見られた。「進路の手引き」の有用性を向上させるためには、生徒の進路・キャリアプラン形成に必要な情報を掲載する必要があるため、学科による傾向を分析することで重要と考えられる記載項目を検討する。また、生徒の多様な進路に対応するためには、進学実績や学科を問わず幅広い情報を掲載していく必要があり、他学科の「進路の手引き」も参考にすることで、多様化する進路に対応する「進路の手引き」の更新につながると考える。

#### ア　学科における記載項目の比較調査

令和５年度の調査対象の学校を普通科、専門学科、総合学科、普通科と専門学科併設校(以下、併設校)に分類し傾向を見ていく。学校数は表７に示す。

**表７　学科と学校数**

| 学科 | 学校数 |
|---|---|
| 普通科 | 51 |
| 専門学科 | 18 |
| 総合学科 | 9 |
| 普通科＋専門学科 | 10 |

※伊豆伊東高校は普通科とビジネスマネジメント科を別にしている

この分類をもとに、それぞれの学科で掲載されている項目の割合を比較し、中でも学科ごとの特徴を見ていくと、違いが見られた項目は、受験スケジュール、入試方式、総合・推薦の記述、入試結果、共通テストといった「入試に関わる記述」と、年間進路計画、進路選択・キャリアプラン、学部・学科探究、就職について、大学進学に係る費用といった「進路選択に関わる記述」に分類することができる。

#### イ　「入試に関わる項目」の学科ごとの傾向(図２)

入試に関する記述については、普通科では一定数の学校が一般選抜についてのデータである「共通テスト結果」・「入試結果〇×」を記載していることに対し、その他の学科では掲載は少なく、反対に「総合型選抜・学校推薦型選抜の記述」について多くの学校が記載する傾向にある。しかし、普通科においても、これらの項目を掲載する学校は約半数で、学科よりも各学校の進学実績が大きく影響していると考えられる。また、受験スケジュールや入試方式については、総合学科と併設校の全ての学校が記載しており、生徒の多様な進路に対応するために必要であると考えられる。

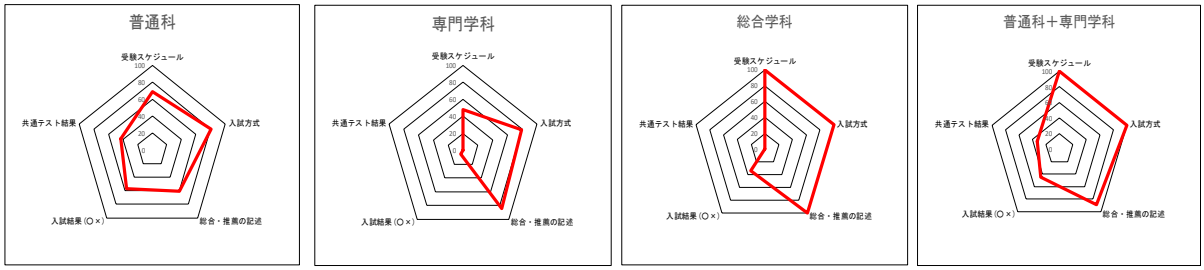


**図２　入試に関わる項目の学科ごとの傾向**

### ウ　「進路選択に関わる項目」の学科ごとの傾向

進路選択に関わる記述について、「進路選択・キャリアプラン」の項目については、専門学科・総合学科・併設校のほとんどの学校が掲載しており、(3)イと同様に、多様な進路に対応していると考えられる。一方で、普通科においても多様な進路が想定されるが、進学における入試方法のみを掲載している学校も多く、他学科に比べて割合は低くなっている。特に総合学科においては、類型選択などの関係から、１年次から将来的なキャリアを検討するために、様々な進路についての情報を提供する必要から、全ての学校で記載されていると考えられる。大きな開きがあるのは「就職について」の記載で、普通科での掲載割合がその他学科と比べると少なく、これについては各学校の進学実績が大きく関係していると考えられる。

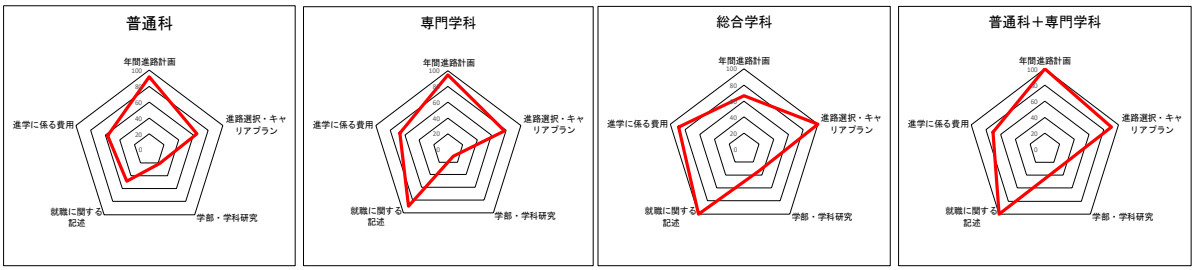


**図３　進路選択に関わる記述の学科ごとの傾向**

## (4)　「進路の手引き」の掲載項目の検討

### ア　調査結果から見る掲載情報の検討

調査結果から、「進路の手引き」における必要な情報を検討していく。表８には調査結果の上位項目を示す。９割以上の学校が記載していた年間進路計画、進学実績、合格体験記は、その学校独自で作成する資料で、在学している学校の進路状況を把握するための重要な資料と言える。生徒の在学中のキャリア発達課題の達成や、進路実現のための目標設定を立てるためにもこれらの情報の有用性は高いと考える。次に掲載が多い情報としては、入試方式や各上級学校の説明などの進学や就職に関わる一般的な情報である。これらの情報は、生徒が進路を検討する際に常に参考にできるようにするため、掲載することが望ましいと考える。

**表８　調査結果の上位項目**

| 調査結果の上位項目 |
|---|
| ○進学実績(98.9%) |
| ○年間進路計画(92.0%) |
| ○合格体験記(90.8%) |
| ●入試方式(84.4%) |
| ●卒業後の進路選択(73.3%) |
| ●進学に係る費用(62.2%) |
| ()内の数字は記載割合 |

### イ　生徒が求める情報

「進路の手引き」に掲載する情報を検討するにあたり高校生がどのような進路情報を求めているかを、国立教育政策研究所による「キャリア教育に関する総合的研究第一次報告書」(2020 年３月)の高校生を対象とした調査結果で見ていく。この調査の問 16 ではキャリアや進路を検討する際にどのような指導をしてほしかったかを見ることができる(表９)。

**表９　将来の生き方や進路のために指導してほしかったこと**

| 問 16 | あなたは、自分の生き方や進路について考えるため、ホームルーム活動の時間や総合的な探究の時間などで、これまでにどのようなことを指導してほしかったですか？(複数回答) |
|---|---|
| ○ 自己の個性や適性(向き・不向き)を考える学習(33.5%)<br>○ 社会人・職業人としてのマナー(22.9%)<br>○ 就職後の離職や失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応(19.7%)<br>○ 卒業後の進路(進学や就職)選択の考え方や方法(18.4%)<br>○ 上級学校(大学・短期大学、専門職大学・専門職短期大学、専門学校等)の教育内容や特色(17.3%)<br>○ 学ぶことや働くことの意義や目的(17.0%)<br>○ 将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計(16.0%)<br>○ 産業や職業の種類や内容(14.2%)<br>○ 卒業後の進路(進学や就職)に関する情報の入手方法とその利用の仕方(14.0%)<br>○ 労働に関する法律や法制度の仕組み(13.2%) | |

出典：2020 年３月　国立教育政策研究所「キャリア教育に関する総合的研究第一次報告書」より抜粋

卒業後の具体的な進路に関わる指導についての需要もあるものの、将来的なキャリアに関する指導を求める回答が多い。報告書では「生徒の求める指導が，卒業直後の進路選択ではなく，自分を知ることや社会人・職業人になった自分を想定したものである点は注目すべきであろう。これらの期待に応え得る長期的な視野に立った指導の充実・改善を図る必要がある。」としており、これらのことを「進路の手引き」に掲載する情報として検討する必要があると考えられる。

### ウ　現行の「進路の手引き」との比較

上記の調査で回答が多かった項目に近しい内容が「進路の手引き」に掲載されているのかを見ていく。調査内でも比較的回答が多かった、「卒業後の進路(進学や就職)選択の考え方や方法」・「上級学校(大学・短期大学、専門職大学・専門職短期大学、専門学校等)の教育内容や特色」については、７割以上の学校で記載している「進路選択・キャリアプラン」の項目の中で説明されることが多く、直近の進路に関係するため多くの学校が掲載していると考えられる。キャリアに関わる「自己の個性や適性を考える」・「学ぶことや働くことの意義や目的」・「将来の職業選択や役割などの生き方や人生設計」については、一定数の学校で掲載されているが少数である。

また、将来に関わる「社会人・職業人としてのマナー」・「就職後の離職や失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応」についての記載はほとんど見られなかった。キャリアプラン形成に関わる情報については、特別活動内で授業が展開されているため、「進路の手引き」内では掲載しない学校が多い可能性がある。しかし、これらに関わる情報を掲載することで、授業時だけでなく常用資料として生徒が活用することができ、生徒のキャリアプランの形成を促すことができるのではないだろうか。

### (5) 分野ごとの記載モデルの提案

これまでの調査をもとに、進路の手引きに掲載する情報の提案を行っていく。卒業後に進学・就職を希望する生徒が学科を問わず存在することを考え、ここでは進路分野ごとの提案を行っていく。また、全ての学校に共通する資料や全体の構成に関わる部分についても提案を行う。

#### ア　共通編

４(4)でも言及したが、「進路の手引き」を作成する際に、各学校の学校独自の資料として作成できるものとして右の項目を挙げることができる(表 10)。これらは、各学校の進路指導・キャリア教育の方向性を示すものとなるため、非常に重要な項目となる。

年間進路計画は、各学校のスクール・ポリシーや教育目標と関連付けながら、３年間の進路行事と、進路実現のために今何をするべきかを具体的に記述することで、生徒は目指すべき将来像が明確になり、進路実現までの見通しを立てることができる。例えば、Ａ高校では、教育目標と到達目標を明記した３年間の進路指導計画の概略図から、進路行事のねらいまでを詳細に記した指導計画が６ページにわたって記載しており、生徒に具体的なイメージを持たせる工夫がされている(表 11)。同校進路指導主事は「教員も見通しをもって進路指導に当たれるように」と言っており、教員にとっても、学校における進路指導やキャリア教育の方向性を共有するための資料となる。

**表 10　学校独自の項目例**

| 学校独自の項目例 |
|---|
| ○年間進路計画<br>スクール・ポリシー、教育目標、進路目標と絡めて行事を掲載<br>○合格・就職実績<br>合否結果の詳細<br>一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜の合否と模試・学力テスト・評定平均との相関<br>○合格体験記<br>自由記述だけではなく、学習時間や勉強方法等、具体的な項目<br>○キャリアプランを検討する情報<br>キャリア教育と連動させた情報、ワークシート |

**表 11　Ａ高校の年間進路計画の項目**

| 教育目標・進路目標 |
|---|
| ●教育目標「○○○…」<br>●到達目標(目指す生徒像)「△△△…」<br>卒業時に目指す生徒像の明示 |
| **３年間の進路計画** |
| ●各進路行事とそのねらい<br>●進路決定、実現までの流れ<br>●各時期における学校生活や心構えや留意点<br>各時期の行動指針などで、在学中のキャリア発達を促す |

また、これらの年間進路計画の中に保護者向けのアドバイスを記載することで、子供の進路の決定時期などに不安を持つ保護者に対して、有益な情報を提供できるのではないか(図４)。

| 学年 | 月 | 学校生活 | | 進路 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 行事 | 生徒 | 行事 | 生徒 | 学校 | 保護者 |
| １年生 | ８月 | 夏休み<br>始業式 | 生活リズムを一定に保ち、計画通りに夏休みを過ごす。 | 夏期補習 | オープンキャンパスやボランティアなどに積極期に参加し、進路選択のための情報を集める。 | オープンキャンパスやボランティア等への参加を促す。 | 子供の進路選択について考える時期。夏休みを利用して様々な経験をし、視野を広げることが大切です。また、家庭の中で進路についての話し合いの時間が確保できると良いでしょう。 |
| | ９月 | 文理選択説明会 | 夏休みからの切り替え。文理選択について日々考える。 | 進路希望調査 | 生活のリズムを整える。授業の予習・復習を中心とした学習習慣 | 夏休みからの切り替えを促す。 | |
| | 10月 | 文理選択本登録 | | 中間試験<br>個別面談 | | の選 | 成績のみで文理選択を行わず、子供の希望は何なのか、どうすれば実現できるのかを話し合いながら確認しましょう。 |

進路決定の方法や時期など、悩みやすい部分を情報として提供すると、保護者の進路に関する不安も軽減される。

**図４　年間進路計画と保護者へのアドバイス**　（Ｂ高校の掲載内容をもとに作成）

進学・就職実績については各学校の実態に合わせて内容を検討してほしい。各大学や企業への合格・内定人数の掲載だけでなく、合格実績についても掲載することで実用性の高い資料になると考えられる。例えば、進学実績であれば、模試の成績(偏差値)や評定平均と合否の相関を掲載すると、在学中の生徒の目標設定に非常に有効であるのではないか。また、国公立や難関大合格者の高校１年生から３年生までの模試や学力テストの推移を掲載することで、１・２年生にとっても模試や校内学力テストの目標設定を促すものになると考える。就職についても同様のことが言えるが、これに加えて、資格の有無についても記載することで、生徒が希望企業内定に向けて、資格取得を促すものになるのではないか。これについては図５で例を示す。

| | ３年校内模試 | ３年８月模試 | ・・・ | 共通テスト | | | 取得資格など | 入試結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 偏差値 | 偏差値 | | 満点 | 得点 | 得点率 | | |
| 1 | | | | | | | | |

各模試の偏差値や共通テストの得点率を掲載し、生徒の成績推移を掲載

英検などの有無や、受験における簡単な分析を掲載

**図５　成績推移の掲載例**　（Ｃ高校の掲載内容をもとに作成）

将来的なキャリアを検討する記述については、進路を考える際の心構えとして巻頭言などで簡単に言及するケースが多い。４(4)ウで述べたように、詳細な内容については「進路の手引き」では扱わないケースが考えられるが、授業や行事を補助する形で「進路の手引き」に将来的なキャリアを考えるための情報が掲載できるのでは

ないだろうか。例えば、４(4)イの調査結果で回答が多かった「就職後の離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応」・「転職希望や再就職希望者への就職支援の仕組み」については、ハローワークなどの相談先などについて掲載している学校もある(図６)。このような情報については「進路の手引き」の中でも掲載することができ、キャリア教育の一助となるものと考えられる。

Q．学校や仕事をやめてしまったらどうしたらいい？
A．まずは辞める理由を確認しましょう…
・
・
・
以下のような相談機関があります。

●ハローワーク
○○○○○○…
●しずおかジョブステーション
△△△△△△…
●静岡地域若者サポートステーション
□□□□□□…

**図６　卒業者支援についてのページの例**

### イ　進学編

進学に関わる資料は多岐にわたるため、学校の実情に合わせた情報を掲載した方が良い。進学に関わる項目例としては表 12 のようなものが考えられる。

**表 12　進学に関わる項目の例**

| 進学に関わる項目の例 |
|---|
| ○上級学校の説明<br>大学・専門学校・専門職大学の比較<br>○学問系統<br>学問系統から職業のつながりまで<br>○入試制度の説明・アドバイス<br>総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜(共通テストについても含む)、共通テスト結果(昨年度との比較)<br>○入試スケジュール<br>進学に係るスケジュールを表で図示<br>○昨今の入試動向<br>全国、校内<br>○高校における学習方法<br>共通テスト対策、日々の学習方法<br>○進学に係る費用<br>大学・専門学校の学費、奨学金制度、教育ローン<br>○指定校推薦一覧<br>○志望理由・面接・小論文について |

上級学校の説明では、各上級学校の教育内容等の比較などを通して、生徒に将来的なキャリアも考えさせたい。学問系統から職業へのつながりなど、上級学校卒業後のキャリアと関連させながら記述することで、生徒の進路研究がより深まると考えられる。また、より具体的な進路イメージを持たせるために、卒業生による大学生活や研究について紹介するページを作成することも有効であると考えられる。

入試制度については、各試験の説明にとどまらず、学習方法、志望理由、面接試験や小論文試験についてのアドバイス、さらには昨今の入試動向を掲載することで、生徒の日ごろの学習や受験に役立つ実用的なページになる。以上の情報については、各学校で作成することも考えられるが、ベネッセや河合塾などの業者が作成した資料を活用することも有効である(表 13)。著作権などに十分に注意しなければならないが、各入試の説明や入試動向の分析などについて最新の情報を紹介してくれているため、内容更新のための負担は軽減できる。また、これらの情報については、入試情報サイトなどのＵＲＬやＱＲコードを掲載することで、生徒が手軽にアクセスすることが可能になり、生徒の主体的な進路研究が促されるのではないだろうか。

表 13　入試情報サイトの一例

| |
|---|
| ●ベネッセ マナビジョン(大学検索・入試情報)　https://manabi.benesse.ne.jp/ |
| ●河合塾 Kei-Net(大学検索・入試情報) https://www.keinet.ne.jp/ |
| ●旺文社 パスナビ(大学検索・入試情報) https://passnavi.obunsha.co.jp/ |
| ●駿台予備校(入試情報)　https://www2.sundai.ac.jp/sites/sv/news/index.html?d=Touch |

### ウ　就職編

就職についての記述は、学校によって就職希望者の多少はあるが、多様な進路の可能性を考えると、情報を記載することが望ましいのではないか。就職に関わる主な項目は表 14 のとおりである。

近年の就職動向については、求人状況などと併せて、産業・職業分類についても情報を提示することで、生徒が希望職種・企業、また卒業後のキャリアを具体化にイメージできるようになると考える。

就職試験に関わる内容については、履歴書・お礼状の書き方、面接質問例、面接の所作などの具体的な情報が掲載されているが、就職者の多少にかかわらず、生徒の就職試験対策と教員による体系化された就職指導という面から、掲載することが望ましいと考えられる。特に、筆記・作文・面接試験については、出題例などを生徒への聞き取りや受験報告書から最新の情報に更新していきたい。例えば、受験報告書等の情報を基に、実際に面接試験で出された質問を頻度ごとに整理して掲載することで、近年の傾向が反映された面接試験対策の実用性の高い資料となる(図７)。

表 14　就職に関わる項目の例

| 就職に関わる項目例 |
|---|
| ○近年の就職動向<br>　新規学卒者の求人動向<br>○産業・職業分類<br>○就職試験スケジュール(公務員含む)<br>　就職試験スケジュール、就職試験の注意事項、公務員試験スケジュール<br>○就職試験に関わる内容<br>　履歴書の書き方、面接における所作、面接質問例<br>○昨年度求人票<br>○社会人としてのマナー |

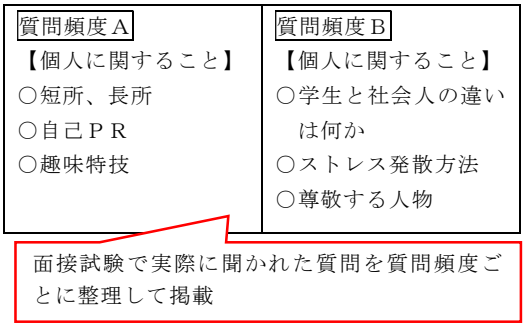


図７　就職質問掲載例
（Ｄ高校の掲載内容をもとに作成）

また、就職関係の情報と関連させて、キャリア教育の一環として社会人としてのマナーについて掲載することも有効であると考えられる。インターンシップや探究活動における外部と交流する機会のためにも、電話対応やビジネスマナーなどを掲載し、事前指導などで活用することも考えられる。

### エ　ワーク編

「進路の手引き」は、進路・キャリアについての情報を掲載する学校がほとんどであるが、少数の学校では進路ワークやワークシートを挟み込んだ「進路の手引き」を作成している。これらは、進路に関する授業や、大学・企業調べ、インターンシ

ップや大学見学などの各進路行事の振り返りなど、授業や行事での活用が期待できる。例えば、Ｅ高校では進学資料（進学に関わるデータ）・合格体験記とともに「進路ノート」を作成し、他の資料や行事と併せて活用できるようにしており、生徒のポートフォリオまたはキャリア・パスポートとしての役割をもっている。同校進路指導主事は、「生徒が３年間の見通しをたてて、進路やキャリアを検討してほしい」と語っており、同校の「進路ノート」は、１冊の中に３年間分のワークシートが掲載されている（表 15）。

**表 15　Ｅ高校のワーク例**

| Ｅ高校のワーク例 |
|---|
| ●自己分析と進路希望（１～３年） |
| ●オープンキャンパスの記録（１・３年） |
| ●合格体験記・進学資料を読んで（１～３年） |
| ●学部学科調べ（２年） |
| ●進路講演会の記録（１～３年） |
| ●アドミッション・ポリシーを考える（３年） |
| …など |

また、「探究活動とキャリア教育の要素をワークの中に盛り込みたい」とも語っており、キャリア教育と探究活動の結びつきを考えた際に、探究活動に関連する内容も掲載することを検討する必要があると考えられる。このようなケースを考えた際に、ワークシートの挟み込みやワーク型の進路の手引きであれば、進路・キャリアと探究を往還する１冊の「進路の手引き」を作成できる可能性がある。

## ５　研究のまとめ

### (1) 研究の成果

本研究では、各学校の「進路の手引き」の内容調査を通して記載例を提案した。今回の記載モデルがすべての学校に適用されるわけではないが、「進路の手引き」の作成・更新の一助になると考える。中でも、学校独自の資料である年間進路計画、進学・就職実績、合格体験記を充実させることは、生徒の目標設定や目指すべき将来像を明確にするために重要である。年間進路計画については教育目標やスクール・ポリシーと各進路行事が関連付けられることにより、生徒が、在学中または将来的に目指す人物像が明確になるとともに、教員のキャリア教育・進路指導の共通認識を持たせることにも期待ができる。進学・就職実績、合格体験記では、成績の変遷、具体的な学習方法などの掲載で、生徒の進路実現のための目標設定や主体的な学習を促すことができると考える。これに加え、各学校でキャリア教育が推進されていることから、「進路の手引き」の中で、キャリア教育で身に付ける力や各学校のキャリア教育と連動したワークなどを掲載していくと、活用場面は増すことが考えられる。

また、現在の傾向として、「進路の手引き」は上級学校の説明や入試制度の説明などの卒業後の具体的な進路に関する内容が多い。本研究で提案した記載モデルは、これらに関わる情報を網羅した内容となっているが、実際には学校の実態に合わせて情報を取捨選択する必要がある。そして、これらの資料の作成については各学校で独自の資料を作成することも可能であるが、業者等の外部資料を活用することで、定期的な更新をする際にも負担が軽減され、その分、その他の資料を充実させることができるはずである。

今回の研究では実施することができなかったが、有用性を高めるためには、生徒・教員からの声を聴くことが最も効果的であると考えられる。昨今の社会変化の中で、生徒が求める指導も変化をしてきており、ニーズに合った「進路の手引き」を作成するためにも、アンケート等を通して、求められる情報や活用状況を把握し、定期的な内容の更新をしていく必要があると考える。

**(2) 研究の課題**

「進路の手引き」の有用性をより向上させるためには、構成や内容について、さらに検討する必要がある。生徒や教員を対象とした「進路の手引き」の内容に関するアンケートや、各学校の進路指導主事との情報共有から、１冊のモデルケースを作成することで、各学校の「進路の手引き」の更新や改訂が進むのではないだろうか。併せて、電子データでの作成といった発行形式についても検討したい。

また、各学校でキャリア教育や探究的な活動が実施されている中で、従来までの、高校卒業後の進路に焦点を当てた内容だけでなく、社会人・職業人までを見据えた長期的な視点から「進路の手引き」を作成することで、キャリア教育と探究的な活動が往還する資料となると考えられる。そして、これらの資料によって、生徒が自己の将来とのつながりを考えながら、在学中の高校生活や学習に主体的に取り組むきっかけとなるのではないだろうか。

学校における「進路の手引き」の位置づけについても検討したい。各学校の進路指導の方向性を示す資料の側面がある以上、スクール・ポリシーや教育目標との関連、学校ホームページや学校要覧等の資料との連動が必要になると考えられる。加えて、進路資料として、生徒、保護者など、どこまでを対象とするかについても検討することで、内容も含めた資料としての在り方を考えるきっかけとなるのではないだろうか。

**【参考文献・資料】**


［1］文部科学省(2018)「高等学校学習指導要領総則編」

［2］文部科学省(2020)「大学入試改革の状況について」

［3］文部科学省　中央教育審議会(2011)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」

［4］文部科学省(2023)「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」

［5］国立教育政策研究所(2010)「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育　－高等学校におけるキャリア教育指針のために－」

［6］国立教育政策研究所(2020)「キャリア教育に関する総合的研究第一次報告書」

［7］大谷奨(2011)「進学重視校における進路指導と推薦/ＡＯ入試　－Ａ県県立高校の『進路指導資料』を手掛かりとして」『大学入試研究ジャーナル』,21,6-11